

カービュー マーケットウォッチ (2011年9月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

前年同月比は大幅減ながら09年比では震災後初のプラスに

11年 8月順位	11年 7月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	24,998
2	(2)	→	フィット	ホンダ	16,868
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	10,257
4	(5)	↑	セレナ	日産	6,628
5	(7)	↑	カローラ	トヨタ	5,962
6	(4)	↓	デミオ	マツダ	5,868
7	(6)	↓	ラクティス	トヨタ	4,787
8	(12)	↑	パッソ	トヨタ	4,633
9	(11)	↑	ヴォクシー	トヨタ	4,322
10	(9)	↓	マーチ	日産	3,642
11	(13)	↑	ノア	トヨタ	3,556
12	(8)	↓	フリード	ホンダ	3,389
13	(10)	↓	ノート	日産	3,337
14	(17)	↑	ウィッシュ	トヨタ	3,175
15	(24)	↑	シエンタ	トヨタ	3,117
16	(14)	↓	ジューク	日産	2,505
17	(16)	↓	ソリオ	スズキ	2,414
18	(15)	↓	キューブ	日産	2,359
19	(18)	↓	ラフェスタ	日産	2,341
20	(22)	↑	ティーダ	日産	2,261

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■前年同月比は大幅減ながら09年比では震災後初のプラスに 海外メーカー製輸入乗用車のみ前年超に転じる

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した8月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は27万3273台で、前年同月比は74.0%と12カ月連続で前年を下回った（貨物車、バスを含む総新車販売台数は32万9838台／前年同月比77.6%）。昨年は新車購入補助金制度終了前の駆け込み需要で、同月比40.1%増と売り上げを伸ばしていただけに下落率は大きいですが、一昨年の09年と比べると、同月比は103.7%と3月の震災後では初めてプラスとなった。8月はもともとクルマが売れる月ではないので、前月比もマイナスだが、回復基調が明確になったといえそうだ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分含む）は17万3404台で、前年同月比は68.4%。ただ09年との比較では2.5%のプラスだ。メーカーブランド合計では、「CT200h」に加え、「IS」、「RX」が前年超となったレクサスと、「ソリオ」が目標の56%増と好調なスズキ以外は前年を下回り、とくにホンダとマツダは前年同月比50.9%、53.8%と大苦戦。ホンダは「フィット」こそ1万6868台（ハイブリッド、シャトル含む）で月間ランキング2位と堅調だが、「フリード」や「ステップワゴン」が前年同月比30.2%、22.3%と落ち込み、マツダも先月は1万台超で4位にランクアップした「デミオ」が5868台、前年同月比65.6%と伸び悩んだのが響いた。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（ α 含む）」が2万4998台で3カ月連続トップ。 α が5729台と好調で、シリーズ全体で前年同月比12.3%増となった。2位の「ホンダ フィット」は、ハイブリッド6122台、シャトルハイブリッド3769台とハイブリッド車が全体の58.6%を占めている。このほか、デミオが6位に後退したが、「パッソ」、「ヴォクシー」がベスト10圏内に振り返りなど、トヨタ勢の復調ぶりが目につく結果となっている。

軽自動車は乗用車部門が8万4617台で、前年同月比83.4%（貨物車を含めた全体は11万3328台／前年同月比84.4%）と11カ月連続のマイナス。今月発表予定のリッター30kmを達成したダイハツ新型軽に期待がかかる。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万4839台、前年同月比106.9%とプラスに転じた（日本メーカー製含む輸入乗用車全体では1万8890台、前年同月比99.5%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が3502台で8カ月連続トップ、2位は2490台でBMW（MINIを除く）がワンランクアップし、3位は2430台でメルセデス・ベンツ。ベスト10圏内ではトップのVWと7位プジョーを除き、4位アウディ、5位MINI、6位ボルボ、8位フィアット、9位ルノー、10位ジープとも前年を上回る売れ行きだった。

■ココも気になる！その1

スズキがVWとの提携を解消し、独自路線維持を選択

昨年の貨物車や軽自動車を含む新車年間販売台数では、1位トヨタ 153万 1722台、2位ホンダ 64万 7289台、3位日産 64万 5369台、4位スズキ 61万 9517台、5位ダイハツ 60万 8510台という順だった。世界No.1でもあるトヨタは別格とすると、国内販売台数上はホンダ、日産、スズキ、ダイハツが2番手グループを形成しているわけだ。ただこれはブランド上のことで、資本や業務の提携関係はもっと複雑。日産はルノーと提携関係にあり、ダイハツはトヨタグループの一員としてトヨタやスバルに完成車を供給、スズキもVWと提携し、日産やマツダ、三菱に完成車を供給するなど、単独で事業展開しているのはホンダのみといった状況だ。

そんななか、スズキがVWとの提携解消を発表。スズキは08年にゼネラルモーターズとの27年間におよぶ提携関係を解消し、09年12月にVWと資本・業務面の提携を結んだのだが、具体的な成果を見せることなく、ゼロリセットすることになった。まだVW側の態度が明確でなく、不透明な部分もあるが、当面スズキとしては独自の路線を歩む方針だ。

スズキは06年まで34年連続軽自動車No.1になるなど、国内では軽自動車を中心に展開していたが、04年デビューの「スイフト（旧型）」や、この年投入した「SX4」といった世界戦略車の販売が好調だったため、年産24万台規模の小型車専用工場建設に着手するとともに軽の減産を決定。このため翌年からダイハツに軽No.1の座を奪われる結果となったが、3ナンバー／5ナンバー乗用車（登録車）は06～09年に三菱を上回る実績を残した。

そして今年は1月発売の「ソリオ」が絶好調。8月までに年間販売目標1万2000台を上回る2万4985台を売上げ、3月には三菱にOEM（相手先ブランド）供給をスタートさせた。こうしたOEM供給はスズキのお家芸でもあるが、ライバルのダイハツがリッター30kmを実現した新型軽を投入するだけに、その対応策も急がれるところ。環境対応技術の早期確立がVWとの提携目的でもあっただけに、今後要注目だ。

■ココも気になる！その2

前年同期比 40.1%増と好調なボルボに注目

国産車が昨年の補助金終了による駆け込み需要の反動や震災の影響で前年割れが続くなか、海外メーカー製輸入乗用車は今年の1~8月累計で12万3328台、前年同期比105.1%と堅調な売れ行きとなっている。ただVW、メルセデス・ベンツ、BMWのトップ3が前年同期比91.7%、101.9%、102.9%と伸び悩んでいるのに対し、4位アウディ、5位MINI、6位ボルボが120.4%、119.4%、140.1%と2ケタの伸びとなっているのが特徴だ。

なかでもボルボは、昨年の年間販売台数でも7767台、前年比125.0%と好調だったにもかかわらず、数字を大きく伸ばしているのが注目される。ラインナップのなかで一番人気なのは50シリーズで、昨年は年間で2808台、前年比138.8%。今年1~6月の上半期でも1472台、前年同期比113.8%と伸びている。ただ今年の上半期に限れば、3月にセダン「S60」、6月にワゴン「V60」が投入された60シリーズが好調で、2149台と50シリーズを上回った。受注もS60、V60合わせて2000台を超え、当初の予定を早め、7月から2012年モデルの販売を開始したほどだ。このほか、「XC60」も昨年は133%増と大幅に伸び、ボルボ全体の13%以上を占める主力モデルに成長している。

スウェーデンが本拠地のボルボは99年にフォードに買収されたが、フォードの経営不振により昨年8月に中国の浙江吉利控股集团（ジーリーホールディンググループ）に売却。経営が安定したことで世界市場でも販売が好調で、昨年は9.5%増の34万台強、今年は8月まで18.6%増の25万台強が売れている。来年には家庭用電源でも充電できるプラグインハイブリッド車を投入する予定など、定評ある安全性に加え、環境性能も手に入れようとしてるボルボから目が離せそうにない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
